



地図帳を活用し、特徴のある地形を見つけよう。

問1 (1) カルデラ

①カルデラはどのようにして出来上がるか、次の中から選び、() を付けよう。

河川の働き 火山の働き 波の働き 氷河の働き

②カルデラの特徴を述べているものを、次のア～エから一つ選ぼう。

- ア. U字谷の最上部に出来るすり鉢状のくぼみ
- イ. 火山の爆発や噴火により出来た大きなくぼ地
- ウ. 洪水時、水と一緒にあふれ出た土砂が堆積してできる微高地
- エ. 砂州によって湾や入り江が塞がった浅い湖や沼

③北海道地方にある有珠山、九州地方にある阿蘇山を『新詳高等地図』の中で探し、印を付けよう。

④カルデラに水がたまると、カルデラ湖となります。『新詳高等地図』p.135～136で見られる洞爺湖、屈斜路湖、摩周湖を地図の中で探し、印を付けよう。

⑤北海道地方で見たカルデラ湖の形を参考にして、『新詳高等地図』p.131の青森県・秋田県境で見られるカルデラ湖を探してみよう。

(2) 海岸で見られるさまざまな地形

①次のア～エの特徴を持つ海岸の地形を、語群の中から選ぼう。

ア. 砂州が発達して陸続きとなった島

イ. 多くの島々が浮かぶ海域

ウ. 平坦な海底が海面上に現れた平野

エ. 複雑に入り組み、屈曲した海岸線

語群	トンボロ（陸繫砂州）	干潟	海岸平野	リアス海岸
	多島海	陸繫島	氾濫原	

② ①のア～エの地形を、『新詳高等地図』の次のページの中で探してみよう。

ア. 砂州が発達して陸続きとなった島 日本p.118、127

イ. 多くの島々が浮かぶ海域 世界p.58 日本p.115～116

ウ. 平坦な海底が海面上に現れた平野 世界p.80 日本p.126

エ. 複雑に入り組み、屈曲した海岸線 世界p.55 日本p.131～132



地形と人々の生活との関わりについて、河川の作る地形を例に、考えてみよう。

問2

①『新詳高等地図』p.124で、「甲府盆地」と「勝沼」に○印を付け、山梨県の東部や西部の山地・山脈を語群から選ぼう。

東部

西部

語群 飛驒山脈 木曽山脈 赤石山脈 越後山脈 関東山地

②甲府盆地に見られる扇状地はどのような場所に出来るか、『新詳高等地図』p.138「②③扇状地－甲府盆地」を見て考えよう。

③『新詳高等地図』p.138の扇状地の地形図の中で多く見られる土地利用について、次の中から選ぼう。

- ア. ✓ イ. ▲ ウ. ○ エ. ||

④ ③のような土地利用となる理由について、次の文章の()の中で、適する語句を選ぼう。

扇状地は扇頂・扇央・扇端の3つの部分に分かれるが、扇央の地域は河川が（蛇行・伏流）するため水はけがよく、畑や果樹園の利用が多い。地下水が湧き出る扇端では、（水無川・水田・谷口集落）が見られる。山梨県では（ぶどう・りんご・みかん）の栽培が盛んである。



地図帳を使って、大地形の特徴をつかもう。 p.31～32「①南アジア」、p.193～194「⑤プレートテクトニクス」

問3

①『新詳高等地図』p.31～32で、ヒマラヤ山脈に○印を付け、世界で最も高い山の標高を確認しよう。

 m

②『新詳高等地図』p.194「③大陸の移動と現在のプレートの分布」を見て、インド半島はどこにあったと考えられるか、③～④のそれぞれに印を付けよう。

③『新詳高等地図』p.193～194「⑤プレートテクトニクス」を見て、ヒマラヤ山脈の形成に関わりのあるプレートを2つ挙げ、プレート境界の種類を答えよう。

プレート	プレート
境界	

④『新詳高等地図』p.31「読図」のように、ヒマラヤ山脈の東部で山と川が交互に並ぶ理由を考えてみよう。

地図帳を活用した「地形と人々の生活」に関する ワークシートの活用について

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之

大地形と小地形の扱い方

人間の生活に深く関わる地形分野の学習（『高校生の地理総合』p.38~47）は、大地形と小地形に分けて考える整理がしやすい。今回のワークシートの構成では、「ウォーミングアップ」で日本の地形の特徴を考慮し、「火山」および「海岸」に関わるものの中から、地図帳で比較的その形状がとらえやすい、「カルデラ」と海岸の諸地形を取り上げた。「ステップアップ」は、小地形のなかで、河川の作用がつくるものは土地利用と人間の活動の関わりが分かりやすいことから、「扇状地」を取り上げた。扇状地以外に、「氾濫原」や「三角州」を取り上げることもできる。自分が暮らす身近な地域の中で目にする地形が、生徒にとってはなじみやすく学習の実感があるだろう。最後の「ジャンプアップ」は、南アジアのページの「読図」を手がかりに、大地形の形成について考えるものとなっている。

地図帳から読み解く世界と日本の地形の様子 (ウォーミングアップ)

問(1)①②のように、ある地形がどの作用でつくられたかを確認し、地域の特徴をつかませる。その後、問③～⑤のように、地図帳のさまざまなページの中で同じ地形に該当するものを見つけさせ、印を付けるといった作業を組み込む。日本各地にカルデラはあるが、地図上でその形が分かりやすいものは、北海道から東北地方に見られる。発展的な内容として言及するならば、鹿児島湾が巨大なカルデラで、桜島はその一部であることを紹介するとよい。問(2)は知識の整理を中心としたが、世界の中で同じ地形を見つけることに時間を割く。地形は、その特徴が理解できれば日本でも世界でも同様に考えればよいということを伝える。留意点として、イ～エは地図帳上でも分かりやすいが、アの陸繫島

は、その規模が小さいため、地図帳上では形状が判別しにくい。この点は、教員が具体的な地名を挙げ、デジタルマップなどを活用して詳細を見せるようにする。また、ワークシートでは取り上げられなかったが、フィヨルドやエスチュアリーも扱えるとなおよい。

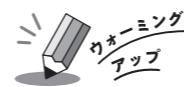
地形の特徴と人々の暮らしを結び付けて考える (ステップアップ)

この項目では、問①②が知識の整理および地図帳での確認を通して、授業者は、生徒が山梨県は周囲を山脈・山地に囲まれているという理解から「扇状地が多く分布するはずだ」という地理的な見方・考え方につなげていけるように意識する。問③④は人間の活動に関する内容で、扇状地の水はけが土地利用と関係することから、地形と人間の暮らしを考える際の視点として、「水が得やすいか、得にくいか」に気付かせられるとよい。また、扇央は現在では果樹の栽培が盛んだが、時代をさかのばれば桑畑として利用されていた時代もあり、歴史と結び付けて地域の変化を考えさせることもおもしろい。

プレートの動きを意識した大地形の理解 (ジャンプアップ)

問③④を通して、現在の大地形はプレートの動きを理解できれば、アンデス山脈やアルプス山脈のように、南アジア以外の地域を学習する際に役に立つことを伝える。ヒマラヤ山脈の場合、南方向からユーラシア大陸に大きな力が加わったことで、元の地域は東や西方向に押し出されるように山脈（高原）や平野を形成し、高地では遊牧のような暮らし、平野では稻作や畑作といった農牧業につながることを確認できるとよい。

右面の解答例はコピーしてご活用ください。



問1 (1) カルデラ

① 火山の働き

② イ. 火山の爆発や噴火により出来た大きなくぼ地

③④ (略)

⑤ 十和田湖

(2) 海岸で見られるさまざまな地形

① ア. 陸繫島

イ. 多島海

ウ. 海岸平野

エ. リアス海岸

② ア. 日本 p.118

潮岬

p.127

江の島

※世界では、地図帳 p.49 のモンサンミッシェルなども陸繫島である。

イ. 世界 p.58

エーゲ海

日本 p.115～116

瀬戸内海

ウ. 世界 p.80

アメリカ合衆国・大西洋岸平野

日本 p.126 九十九里浜

エ. 世界 p.55

スペイン・リオスバハス海岸

日本 p.131～132 三陸海岸



問2

① 東部 関東山地

西部 赤石山脈

② 例) 河川が山地から平地に出る、傾斜が緩やかに変わる谷の出口

③ ウ. ○

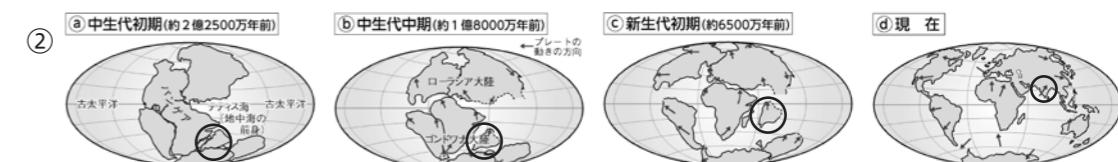
④ (蛇行・伏流) (水無川・(水田)・谷口集落) (ぶどう・りんご・みかん)



問3

① 8848 m

② (a) 中生代初期(約2億2500万年前)



(b) 中生代中期(約1億8000万年前)

(c) 新生代初期(約6500万年前)

(d) 現在

③ ユーラシア プレート

インド・オーストラリア プレート

④ せばまる 境界

④ 例) インド・オーストラリアプレートがユーラシアプレートに衝突し、地殻が押し上げられヒマラヤ山脈が形成された。ヒマラヤ山脈東側の東南アジア地域は東側に押し出される形となり、隆起した大地を削る河川の作用によって、谷が形成された。